

自由主義の波、政治改革に及ぶ

- 1) 1799/1800年制定の【18: 】は労働者の団結を内乱罪に準じて罰するもので、労働組合を結成するだけで犯罪だったが、1824年に廃止され、1871年には労働組合法が制定され労働組合の合法化が行われた。
- 2) いわゆる一連の工場法が制定され、特に1833年の総括的な【19: 】（一般工場法）は労働時間の制限などで労働者を保護するものだった。 No.120で既に詳述
- 3) 産業革命期にアイルランドのカトリック教徒が労働者として流入していた。1828年には【20: 】が廃止され、1829年の【21: 】施行により、カトリック教徒も公職に就けるようになった。No.132で詳述する。後掲記事で述べるように選挙法も改正された。
- 4) 1870年には【22: 】が制定（第一次グラッドストーン内閣、自由党）され、初等教育を行う公立学校（小学校）の増設が決定された。1880年には初等教育が義務化され国費による義務教育が始まった。（第二次グラッドストーン内閣、自由党）その目的は、優秀な労働者や自覚の高い兵士の育成である。
- 5) 自由党アスキス内閣は、労働党の協力を得て、1911年、国民保険法（失業中の労働者に一定期間生活補助、ドイツの社会保険法の影響）を制定。同年、議会法（上院は下院を3回通過した法案、予算案に反対できない）を制定して下院の優位を確立した。11K, 11A アスキス内閣はアイルランド自治法（第3次案）を提案、これは1914年成立したが第1次世界大戦の勃発で実施は延期された。ちなみに、アイルランド自治法第1次案は1886年、第2次案は1893年、両者ともグラッドストーン内閣の提案だが保守党の反対で否決されている。

選挙法改正

以下の〔有権者／全国民比〕は対全国民比だから決して100%にはならない。

- 1) 1832年 第1回選挙法改正〔4.5%〕 ホイッグ党グレイ内閣 08R ←フランス七月革命の影響
この改正前の有権者は全国民比でたった 3% だった！
都市の中産市民（産業資本家）の男性成人に参政権。地主に有利な【23: 】を一掃した。

----- この時期にこのようなことが同時進行していた -----

- (ア) 自由主義経済の発展をはばんでいた様々な法律を撤廃させる動きがつづいた。（前掲記事）
- (イ) 自由貿易論者たちは、民衆教育、平和主義、選挙改革には賛成したが自由放任主義の立場から、今で言うところの【24: 】や労働者の要求には反対した。
- (ウ) 植民地の奴隷市場は19世紀末まで解消されなかった。
- (エ) 1830年代に、保守党、自由党と呼ばれるようになった。1860年代末から1880年代半ばにかけて、二大政党が交互に政権を担当する二大政党制が確立した。
改称は両党とも「1830年代以降」とよく書かれているが詳しくは以下の通り、若干ズレがある。
ホイッグ党……1830年代以降に改称、【25: 】という呼称が定着するのは1850年ごろ。
ヴィクトリア時代の党首はグラッドストーン。
トーリー党……1840年頃に【26: 】と改称。ヴィクトリア時代の党首はディズレイリ。
その後自由党は衰退し、1924年ごろから二大政党は保守党と労働党（1900年結成の労働代表委員会が1906年改称）。

- 2) 1837年ごろ～48年ごろ男子普通選挙の実現などをめざす【27: 】が行われた。これは人類史上最初の労働者階級による組織的政治運動である。第1回選挙法改正（1832年）で選挙権を得られなかった都市労働者を中心に普通選挙の実現を要求した。
1838年 【28: 】（People's Charter）発表 書かれたのは1837年
1839年 【28】は議会で提出されたが否決された！
《人民憲章》の中身：男子普通選挙、無記名秘密投票、議員の財産資格廃止、議員有給制、均等選挙区制、議会の毎年改選
女性の普通選挙は要求に含まれていないことに注意せよ（これを問う出題例あり）
1839、1842、1848年に国会請願、デモ、ストライキなど実施。
1848年の大集会（←フランス二月革命）で最高潮。弾圧と好況で急速に衰退した。
- 3) 1867年 第2回選挙法改正〔9%〕 都市の工業【29: 】の大半に参政権 ダービー内閣（保）
- 4) 1884年 第3回選挙法改正〔19%〕 農業労働者、鉱山労働者に参政権 グラッドストーン内閣（自）
- 5) 1918年 第4回選挙法改正〔46%〕 21歳以上の男子普通選挙、30歳以上の女子制限選挙
女性参政権認められる。 ロイド＝ジョージ内閣（自）
- 6) 1928年 第5回選挙法改正〔62%〕 成人比で約95% 21歳以上の男女普通選挙実現
ボールドウィン内閣（保） なお、選挙権獲得年齢は1969年に18歳となる。

社会主義思想の始まり

No.120で既に詳述した。

